

2024年5月 東京地区百貨店売上高概況

2024年6月24日

I. 概況

1. 売上高総額	1,414億円余
2. 前年同月比(増減率)	17.3%(33か月連続プラス)
3. 店頭・非店頭の増減	店頭19.2%(92.8%)：非店頭-2.6%(7.2%) ()内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	12社 22店 (2024年4月対比±0店) (前年同月比：±0店)
5. 総店舗面積	742,613㎡ (前年同月比：+1.8%)
6. 総従業員数	13,355人 (前年同月比：-4.8%)
7. 3か月移動平均値	10-12月 7.8%、11-1月 7.4%、12-2月 9.7%、 1-3月 11.7%、2-4月 13.2%、3-5月 12.9%

[参考] 2023年5月の売上高増減率は8.0%

【特徴】

5月の東京地区は、売上高(17.3%増)、入店客数(2.8%増)共に前年実績を上回った。インバウンドが好調を維持し売上全体を牽引した他、各社企画のイベントや物産催事も寄与した。2019年比でも15.5%増と二桁増となった。商品別では主要5品目のうち食料品を除く4品目で前年をクリアした。具体的なアイテムの動向は以下の通り。

衣料品(15.2%増)：気温上昇に伴い、ブラウスやカットソーなど初夏物が好調に推移した他、Tシャツをはじめ夏物も本格的に動く。服飾雑貨では、GWのお出かけ需要や母の日需要から帽子、サングラスといった季節商材が好調に推移。

身のまわり品(37.6%増)：ラグジュアリーブランドが、価格改訂前の駆け込み需要もあって引き続き高伸。外出の増加から、晴雨兼用傘やカジュアルシューズ、スニーカー、サンダルが好調に推移した他、スーツケースなどトラベルバッグも国内外共に好調。

雑貨(30.1%増)：美術・宝飾・貴金属が、インバウンドと一部ブランド値上げ前の駆け込み需要で43.4%増と、先月より19.1ポイントアップの大幅伸長。2019年比でも101.4%増。化粧品はUV関連商品を中心に、国内外のブランド共に好調推移。

食料品(2.0%減)：昨年のコロナ5類移行による需要高の反動と物価上昇の影響から、生鮮食品、惣菜は前年割れだが、菓子は国内外の手土産需要や母の日ギフト需要もありプラスを維持。酒類もインバウンドの手土産として好評で伸長。

6月足元動向：5月に続き、インバウンドの好調継続により、前年比21.0%増(6/16時点)で推移。2019年比では24.5%増とコロナ禍前を大きく上回る伸び幅。

【要因】

- (1) 営業日数増減 31.0日(前年同月比 ±0.0日)
- (2) 入店客数増減(回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数16店舗)
 - ①増加した：10店、②変化なし：1店、③減少した：5店
- (3) 5月歳時記(GW、母の日)の売上(同上/有効回答数12店舗)
 - ①増加した：5店、②変化なし：6店、③減少した：1店

東京地区百貨店 売上高速報 2024年5月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率(%)
総 額	141,458,643	100.0	17.3
紳士服・洋品	10,371,676	7.3	11.9
婦人服・洋品	22,840,361	16.1	18.4
子供服・洋品	2,313,761	1.6	9.9
その他衣料品	1,501,079	1.1	0.9
衣 料 品	37,026,877	26.2	15.2
身のまわり品	29,816,898	21.1	37.6
化粧品	12,540,415	8.9	18.8
美術・宝飾・貴金属	19,419,275	13.7	43.4
その他雑貨	4,632,125	3.3	15.2
雑 貨	36,591,815	25.9	30.1
家 具	1,243,067	0.9	9.1
家 電	1,205,956	0.9	-11.3
その他家庭用品	3,036,594	2.1	9.1
家 庭 用 品	5,485,617	3.9	3.9
生 鮮 食 品	3,232,595	2.3	-4.2
菓 子	8,106,113	5.7	1.7
惣 菜	6,202,802	4.4	-1.6
その他食料品	8,262,030	5.8	-4.7
食 料 品	25,803,540	18.2	-2.0
食 堂 喫 茶	2,484,816	1.8	3.1
サ ー ビ ス	1,882,414	1.3	-10.7
そ の 他	2,366,666	1.7	-4.6

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。

本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率(%)

商 品 券	1,393,037 千円	-0.9
従 業 員 数	13,355 人	-4.8
店 舗 面 積	742,613 m ²	1.8

営 業 日 数	31.0 日	前 年	31.0 日
---------	--------	-----	--------

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目は食料品を除く4品目でプラスとなり、衣料品、身のまわり品、雑貨は二桁増となった。その他の品目は、婦人服・洋品、化粧品が33か月連続、美術・宝飾・貴金属が12か月連続でプラスとなったが、生鮮食品が2か月連続、惣菜が5か月ぶりにマイナスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比 (増減率)	寄与度	トレンド
総額	17.3	—	33か月連続プラス
紳士服・洋品	11.9	0.9	4か月連続プラス
婦人服・洋品	18.4	2.9	33か月連続プラス
子供服・洋品	9.9	0.2	3か月ぶりプラス
その他衣料品	0.9	0.0	3か月ぶりプラス
衣料品	15.2	4.0	32か月連続プラス
身のまわり品	37.6	6.8	33か月連続プラス
化粧品	18.8	1.6	33か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	43.4	4.9	12か月連続プラス*
その他雑貨	15.2	0.5	4か月連続プラス*
雑貨	30.1	7.0	33か月連続プラス
家具	9.1	0.1	8か月連続プラス
家電	-11.3	-0.1	2か月ぶりマイナス
その他家庭用品	9.1	0.2	3か月連続プラス
家庭用品	3.9	0.2	3か月連続プラス
生鮮食品	-4.2	-0.1	2か月連続マイナス*
菓子	1.7	0.1	8か月連続プラス*
惣菜	-1.6	-0.1	5か月ぶりマイナス*
その他食料品	-4.7	-0.3	2か月連続マイナス*
食料品	-2.0	-0.4	2か月連続マイナス
食堂喫茶	3.1	0.1	27か月連続プラス
サービス	-10.7	-0.2	5か月ぶりマイナス
その他	-4.6	-0.1	3か月連続マイナス
商品券	-0.9	-0.0	3か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した

お問い合わせは、日本百貨店協会 橘・長柴 まで
TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>